

福山市立女短大 土屋房江 奥山清美 加納三子 津川 淳
三谷璋子 倉田美恵 鈴木雅子

目的 我々はすでに主婦の健康・食生活における意識と実態にかかわる相互の関連性の分析を行ってきた。これらから食構造を規定する要因には多くのものがあると考えられるが、今回は、特に主婦の性格と食構造との関連性について検討を行った。

調査方法 調査対象：福山市内の小学生を持つ母親391名（有効回収率78.2%） 調査期間：昭和55年6月18日～24日、1週間の据置調査 調査内容：性格、食生活の安全性に関する意識と実態、食物摂取の実態、食に関する関心度、体格、健康状態

結果 1)性格を内向・非合理型(26.0%)、内向・合理型(17.7%)、中間型(20.1%)、外向・非合理型(10.7%)、外向・合理型(25.5%)に分類した。このうち特徴的とみられた内向・非合理型、中間型、外向・合理型の3タイプについて以下検討を行った。2)食生活の安全性に関する意識と実態と性格との間には関連性がみられ、外向・合理型に関心が高かった。3)食物摂取の実態と性格との間には関連性がみられた。4)体格と性格との間には関連性がみられ、内向・非合理型に、やせ、太りすぎが多くみられた。5)健康状態と性格との間には関連性がみられ、内向・非合理型の健康状態が悪く、外向・合理型が良い結果を得た。